

# お互いさま

otagaisama

恵みあい、助けあう



理事長より新年のご挨拶

クローズアップ

みんなの居場所「あいRIN」

子どもが安心できる地域の居場所づくり

キラキラ働き人

地域密着型特定施設新しいなば幸朋苑 介護福祉士 谷岡 雅仁さん

キッズタウンにしおおい 管理栄養士 竹下 受里さん

2025 January  
季刊誌(年4回発行)

NO.15

社会福祉法人 こうほうえん





2025  
新年のご挨拶

2025年の新春を迎えるにあたり、  
所感の一端を申し述べ、  
ご挨拶に変えさせていただきます。

# ユマニチュードを 組織の文化へ

社会福祉法人こうほうえん  
理事長 廣江 晃



## 災害派遣から始まった

2024年

2024年は元日から震度7の地震が能登半島を襲い、波乱の幕開けとなりました。被災地では今なお復旧・復興活動が続いていますが、こうほうえんでは鳥取県災害派遣福祉チーム「DWA T」に登録する職員を1月から派遣し、避難所での要介護者支援にあたりました。

この経験を生かし、南海トラフ地震などの災害を想定した中四国地域の連携体制の構築も進んでいます。自然災害は、いつどこで発生するかわかりません。改めて、災害に対する万全の備えを法人全体で取り組んでいきたいと考えています。

2024年の法人の大きな出来事としては『ケアホーム西大井こうほうえん』が日本で5事業所目となるユマニチュード認証のプロンズ認証を受けたことが挙げられます。「ユマニチュード」はフランス発祥の認知症ケアの技法で、他のこうほうえん施設でも関心を寄せる職員は多いです。ユマニチュードは相手の尊厳を守り、思いやるケアであり、互恵互助とも通じるものです。ケア技法としてだけでなく、組織文化として浸透を図りたいと思っています。



(右) 避難所に設置されたテントを巡回しヒアリングするDWA Tのメンバー  
(左) ユマニチュードでの「見る」は、同じ視線の高さで視線を合わせる

## 地域と連携し課題解決を支援

地域での活動に目を向けてみると、米子市の『後藤ヶ丘 加茂地域包括支援センター』を7月に開所しました。社会福祉法人として地域包括ケアの取り組みは大変重視していますから、これからも地域の相談をしっかりと受け止められるよう努めてまいります。

また、高齢化・空洞化が進む米子市の永江団地の再生支援では、2024年10月に空き家を活用した『みんなの居場所 あいRIN』がオープンしました。地域の方とともに地域食堂や学習支援などに取り組み、今後は学童保育の開設も予定しています。



ご利用者の呼吸、心拍、睡眠状態をリアルタイムで  
端末から確認できる「眠りSCAN」

こうした地域へのサポートを継続させていくためにも、経営的な基盤は大変重要です。こうほうえんの東京介護部門は「経営デザイン認証」を2年連続で受けることができました。社会福祉法人として何をすべきかまでを含んだ「経営の設計図」を描き、実践する中で、力を入れているのが職場環境の改善です。ICT機器の導入はその一つで、業務を省力化して職員の負担を減らし、本質的なサービスの向上を目指しています。

## 人財の確保・育成と並行し 予防の啓発も重要

ご利用者に質の高いケアを提供し続けるために、介護人財の確保は最優先事項です。若年人口が減少していく中で、介護業界ではグローバル人財の存在感が高まりを見せ、こうほうえんでも欠かせない存在です。昨年はフィリピンやインドネシアから17名の

グローバル人財を受け入れましたが、今後も積極的にすすめていきたいと考えています。毎年主催する「オールジャパンケアコンテスト」は、日本人職員はもちろんグローバル人財にとっても大きな励みです。その意味でも、大会開催の意義を強く感じています。

今年はいこうほうえんの新たな3カ年の中期計画策定の年でもあります。物価高と人員不足が切実な課題となる中で、職場環境や処遇の改善、教育の充実に引き続き取り組むとともに、組織文化としてユマニチュードの浸透を図りたいと思っています。

また、組織の改善だけでなく、地域社会に呼びかけることも大切であり、フレイル予防の啓発に力を入れたいと考えています。健康寿命を延ばして要介護の人を減らすことは、その人や家族の幸せはもちろん、介護保険制度の維持、持続可能な社会にもつながります。開かれたこうほうえんとして、地域の皆さまと互恵互助の関係を築き、お互いによいような助け合いができるのか、考え続けていきたいと思っています。



介護士や調理員としてグローバル人財が活躍中



## 地域食堂

麺類やカレーなど日替わりのワンプレートを10～15食提供。フードバンクや近隣農家から多くの食材を提供してもらっています。料金は子ども100円、大人300円。高齢住民の孤食を防ぎ、相談のきっかけにもなっています。



日替わりのおいしい料理をみんなで食べて、孤食を防ぎます

一個30円のおにぎりは、子どもが宿題をしながら頼めることも



入り口横の駄菓子コーナー。かつて永江地区にも駄菓子屋があり、大人たちも懐かしさを感じる空間。子どもも買える金額の駄菓子は、会話のきっかけになることも



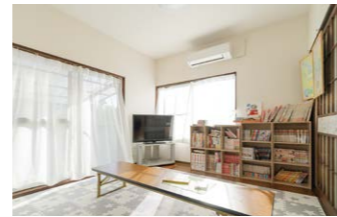
伊藤さんと、こうほうえん職員の宮永和美さん(左)、鷺見和恵さん(右)。また、地域のボランティアスタッフも基本的に2名体制で運営をお手伝いしています

## 学習支援

子どもたちが平等に学習の機会を得られるように、教員OBなどのボランティアが学習を支援。小中学生を対象に土日に昼食付で開催し、費用は無料です。また、子どもが抱える課題を早期に見つけ、適切な支援につなげます。



『あいRIN』の2階が教室。明るく落ち着いた空間。学習支援は登録制で、きょうだいの参加も多いそう



空き家になっていた元クリーニング店を増築・改装した建物は、外観の見た目以上に広々としていて、駄菓子コーナーや飲食スペース、畳部屋などがあり、多い時は20人以上の子どもたちで賑わいます



2024年10月5日に行われた開所式。地域の子どもや高齢者が100人以上集まり、ワークショップや屋台を楽しみました

## 利用者の声



小学生

家の近くに遊ぶところがなかったのうれしい。駄菓子がいっぱいあって楽しい。友達と食べるからおいしい。



ボランティア

食事作りは好きなので手伝いができていい。みんなのためになると思うとやりがいがあります。活気や元気をもらえます。



ボランティア

普段は大人だけの生活なので、子どもとの接し方がわからないこともありますが、刺激もあり、にぎやかで楽しいです。

## 子どもが安心できる地域の居場所づくり

ボランティアさんが地域食堂や見守りなど、さまざまな形でサポートしています

## 施設紹介

### みんなの居場所 あいRIN

- 住所  
鳥取県米子市永江201-15
- 電話  
0859-26-6588(10:30~14:00)  
0859-21-7125(14:00~18:30)
- 開所時間  
平日10:30~18:30



みんなの居場所  
あいRIN HP



### 子どものための第3の居場所が誕生

米子市永江に2024年10月、子どもの居場所づくりを目的とした地域の拠点『みんなの居場所あいRIN』が誕生しました。施設名は地域の子どもたちが名づけ、「あい」＝愛、「RIN」＝輪という意味が込められています。放課後になるとランドセルを家に置いた子どもたちが「こんにちは！」と続々と集まり、宿題をしたり、駄菓子を購入して

3つ目の拠点です。「他の2拠点はどちらかと言うと高齢の方が対象。子どもたちの第3の居場所や、多世代交流の場がほしい」と前から構想があり、ようやく実現しました」と話すのは、地域総合支援室 室長の伊藤道美さん。地域のボランティアの皆さんとともに子どもたちを出迎えています。

『あいRIN』で取り組んでいる事業は、実施予定も含めて次のとおりです。①子どもの居場所(幼児～小学生対象、平日14～17時)、②だがし屋あいちゃん(①の時間帯)、③地域食堂(平日日中10～15食)、④学習支援(小中学生対象、土日10～15時)、⑤相談事業(開所時間随時)、⑥地域の拠点(⑤に同じ)、⑦学童保育(実施予定、平日14～18時)の7事業。

子どもたちに存在を知ってもらうために、学校とも連携して周知してもらっているほか、気がかりな子どもについての情報共有も行っています。「子どもたちが安心して過ごせる場所をつくることで、孤立の防止、貧困対策、課題の早期解決、地域防犯などにつながります。子どもだけでなく地域の皆さんに広く利用してもらいたいです」と呼びかけます。地域の高齢者の方にとっても

## お話を聞いた人



地域総合支援室 室長  
いとう みちみ  
伊藤 道美さん 『あいRIN』では「店長」として、子どもたちを見守り、地域の人の相談に乗るなどしている。「永江地区の3つの拠点から、自分に合う場所を選んでくれれば」と呼びかける。

食べたりに、ボランティアの方とお喋りをしたりと思いいいに過ぎませんが世代を超えた交流の輪が広がっています。

永江地区は米子駅から6キロほど離れた丘陵地にあり、1972年に鳥取県内最大規模の県営住宅「永江団地」が造成されました。しかし、現在は団地の高齢化や子育て世代の流出が進み、唯一のスーパーも撤退するなど空洞化が問題になっています。これに危機感を募らせた地元自治会が主体となって地域の活性化に取り組み、こうほうえんも拠点づくりや健康づくりなど多方面で連携しています。

### 世代を超えた交流の場に

永江地区にとって『あいRIN』は、「支え愛の店ながえ」「コミュニティセンターりんRin」に続く

子どもとのふれ合いの機会となり、地域食堂で一緒にご飯を食べたり、将棋を指したりする中で自然と会話が生まれ、お互いの理解も深まっています。

### ボランティアの温かな支援

運営を支えているのは20名以上の地域ボランティアの皆さんです。「子どものためなら」とボランティアの募集に応じた人も多く、見守りや調理、学習支援の指導など、それぞれが無理のない範囲で子どもたちをサポートしています。「現在は無償ですが、今後、大きな額ではなくても有償にできれば。ボランティアさんの力あつての事業であり、継続していくために必要だと考えています」と伊藤さん。間もなくスタートする学童保育では、習字やそろばん、歴史講座などボランティアさんの得意分野を生かした無料のクラブ活動も予定しています。

「最終的に目指しているのは団地再生。若い人たちに住んでもらうためには子育て環境を整えることが大切であり、特色ある3つの拠点を取りこぼしなく地域をカバーしていきたいです」と、子どもも大人も、誰もが安心して暮らせる住みよい地域づくりを目指しています。





プロフィール

キッズタウンにしおおい 管理栄養士

たけした じゅり  
竹下受里さん

給食の受託業務の会社で働いていた時に、同僚の栄養士から紹介されて2016年に入職。当初は『ケアホーム西大井こうほうえん』と兼務だったが、現在は保育園のみ担当。



＼竹下さんが働く／  
キッズタウンにしおおいとは？

旧小学校校舎を活用した『ヘルスケアタウンにしおおい』内にあり、広い園庭で外遊びが可能。併設するケアホームのご利用者とのふれ合いや、地域向けの子育てルームも実施しています。



HP Instagram



ワクワクを感じる  
食育を提供

**子どもの反応がやりがい**  
「キッズタウンにしおおい」の管理栄養士として、献立の作成や食育、食事時間の巡回など、食を通して子どもたちの成長にかかわっています。乳幼児期は味覚を形成する大切な時期ですから、調理の委託業者と連携して出汁を効かせた薄味を心がけ、子どもたちが食べやすい・食べたいと思える大きさや見た目、彩りを工夫しています。毎月開かれる給食会議は、保育現場の意見をもらえる貴重な機会です。例えば、食べやすさを考えておにぎりは小さめの丸い形で提供していたのですが、かえって一気に飲み込んでしまう可能性があると聞き、三角形に変更しました。こうした、保育現場との連携も欠かせません。

子どもたちからは「おいしかった」「苦手なものを食べられた」など、ダイレクトに反応が返ってくるので楽しいです。やはり、食事は喜んで食べてもらうことが大事。子どもたちの笑顔にやりがいを感じています。

**五感を刺激する食育イベント**  
園では、季節や行事の食育イベントも盛んです。魚の解体ショーを行った時は、子どもたちとスパーで魚を選別することから始まり、食べる



ことは命をいただくということを伝え、そして目の前で捌き、ラップの上からみんなに魚に触れてもらいました。他にも、炊き出し訓練では、かまどの火を使ってご飯を炊くことを経験するなど、準備や後片付けが大変なイベントも多いです。それでも、「いつもよりおいしい」とたくさん食べる子どもたちの姿を見るとうれしさがこみ上げます。

これからも、子どもたちの五感を刺激して、ワクワクするような食育に取り組んでいきたいと考えています。また、料理が食卓に上がるまでに、生産者や販売する人など、多くの人がかかわっていることも伝えていきたいです。食へのさまざまな興味・関心を育てていければと思います。

＼谷岡さんが働く／  
地域密着型特定施設新しいなば幸朋苑とは？

鳥取市に住所のある要介護1以上の認定を受けた29名の方が入居。生活機能改善機器を導入し、レクリエーション体操やリハビリ職と連携した生活機能訓練に力を入れています。



HP



みんなを笑顔にする  
かかわりを

**チームで入居者を支える**  
私が働くケアハウスでは、ご入居者が住み慣れた地域で自立した生活を送れるように生活支援を行うほか、レクリエーションや生活機能訓練にも力を入れています。ご入居者の中には、転倒がきっかけで歩けなくなり、今まで通りの生活が困難になる方もいます。その方が「また歩きたい」と思えるように支えとなり、リハビリ職と連携して生活機能訓練を組み立てるなど、チーム一丸で乗り越えて、みんなが笑顔で楽しく過ごせるよう努めています。

また、「介護付きホーム研究サミット2024」では、通信カラオケ機器「DAM」を使った体操でご入居者が元気になるという結果を報告して優秀賞をいただきましたが、これもがんばってくださったご入居者とチームのおかげです。これからもご入居者が必要とすることに応えられるよう、チーム一丸でより良いケアを提供していきたいと思っています。

**笑顔で楽しく過ごしてほしい**  
ご入居者の心身の状態や生活環境はそれぞれ異なります。コミュニケーションではそれらを考慮することが大切で、かかわりを通して



プロフィール

地域密着型特定施設新しいなば幸朋苑 介護福祉士

たにおか まさひと  
谷岡雅仁さん

関西の大学の介護福祉学科を卒業。大学の企業説明会がきっかけで、地元・鳥取市の『いなば幸朋苑』に2012年4月に新卒で入職。その後異動して現在の職場へ。



ご入居者が笑顔になり、ADLやQOLの向上に役立てた時のやりがいは大きいです。

また、この仕事は死と向き合う仕事でもあります。楽しいことも、悲しいことも多いです。私自身、働き始めた頃に、それまで楽しくお喋りをしていただけなのに急に意識を失って亡くられた方がいて、大きなショックを受けました。ですが、ご家族から「おばあさんはとても幸せそうで、担当してもらえて良かった」という手紙をいただき、今も大切にしています。これからも「ここに来て幸せだった」と言ってもらえるように、ご入居者、ご家族、職員など、かかわる人を笑顔にしていきたいです。地域の皆さまも、何か困っていることがあれば、ぜひ気軽に相談してください。







LIXIL担当者からの実証実験についての説明

2024年11月18日、「紙オムツごみ減量化に向けた実証実験」(国土交通省住宅局 令和6年度 住まい環境整備モデル事業に選定)を米子市、入居者等関係者が見守る中、弊法人の『アザレアコートこうほうえん』にて実施しました。株式会社LIXIL、米子市、こうほうえんによる共同事業となります。

■「紙オムツごみ回収に関する実証実験」とは・・・株式会社LIXILが、米子市で超高齢化が進行する中、在宅介護において以下の課題3点に着目。

1. 在宅介護を受ける高齢者の紙オムツごみ出し負担が大きく、保管時のニオイ問題など、すまい手のQOL低下に繋がっている。
2. 紙オムツごみは年々増加し、ごみ処理費用や回収・焼却処理時の環境負荷が年々増加している。
3. 在宅介護者や被介護者の外出機会が制限されており、新たなコミュニティ形成の機会が減少している。

この3つの課題を解決すべく、地域のすまい手が参画し、紙オムツごみをこうほうえんの施設に集約し、減量化処理するしくみを株式会社LIXILと構築しました。弊法人が有する幅広いリソースを活用し、紙オムツごみ回収BOXを起点とした、新たな地域の多世代コミュニティ拠点を目指していきます。

■連携イメージ



米子市のごみの減量化に向けた実証実験

■米子市のごみの減量化に向けた実証実験

実施期間:2024年11月14日(木)~26日(火) 内容:実証実験①-a 紙オムツ回収、①-b コミュニティ形成場所②紙オムツ処理装置



①-a 紙オムツごみ回収BOX ①-b コミュニティ形成場所 ②紙オムツ処理装置 ③紙オムツ処理装置で粉砕された紙オムツごみ

寄付者 一覧

※2024年9月~11月にご寄付をいただいた皆さま 寄付金合計額:752,000円

心温まるご寄付を賜り、深くお礼申し上げます。皆様から賜ったご寄付は、ご厚志に沿い「地域貢献事業」として使わせていただいております。

- 有限会社フクダコーティングサービス様/50,000円 ●有限会社パイプフレンド様/100,000円 ●有限会社ワイビーエム様/200,000円 ●森真人様/50,000円 ●その他/352,000円
- <北東京エリア>●職員/玩具 <西東京エリア>●サ高住ご入居者様13名/かけはしまつり向けお菓子・ハンドメイド品 ●板橋区立上板橋第二中学校・向原小学校/絵本 ●卒園児 2家庭/玩具・絵本

ボランティア 一覧

貴重な時間をいただき、厚くお礼申し上げます ※2024年9月~11月にボランティアにご参加いただいた皆さま

- <さかいエリア>●塗り絵…明治安田生命2名 ●習字・体操・歌…日赤ボランティア6名 ●習字…日赤ボランティア1名 ●傾聴ボランティア…境港市ことぶき会6名 ●秋祭りの手伝い…境港総合技術高等学校5名
- コンサート…角バンド ●歌…境公民館コーラス(上野様)2名 <よなごエリア>●草取り…米子市ボランティアセンター3名 ●生け花教室…野本操子様 <なんぶエリア>●音読・フラワーアレンジメント…宇山厚子様 ●芋ほり…さくら保育園24名 ●サクソ演奏…坂本さだひで様 ●フルート演奏…YYフルート2名 ●活花…斉木明子様 ●支え愛カフェ補助…乗田千恵様、仲田みどり様、勝部尚子様、梅木恭美様、石田喜和子様、足羽恵美子様、佐藤陽子様、西山直子様、尾原稔枝様、斉木ルミ子様 ●敬老会お抹茶…尾原稔枝様、斉木ルミ子様 ●家族会サポート…乗田千恵様、勝部尚子様 ●軽作業・読み聞かせ・交流…秋鹿美美子様 ●コーラス…米子高校コーラス7名、マザーズ5名 ●カラオケ…カラオケ同好会7名 ●合唱…コーラス大山18名 ●ひよっとこ踊り…ごせんごく友の会5名 ●日本舞踊…光佳流姫すいれん3名
- 大正琴…大正琴の会5名 ●秋祭りお手伝い…ご家族8名 <いなばエリア>●軽作業…鳥取市社協個人ボランティア3名 ●音楽…2名 ●歌の会…紙原歌謡教室6名 <北東京エリア>●園児へのお話・読み聞かせ…芳澤礼子様、おはなしチャチャチャ6名 ●5歳児ワークショップ…畑中望生様 ●介護美容ボランティア…未来プロジェクト47名 ●配膳・傾聴…渡邊様、池間様 ●傾聴…東洋大学6名、帝京大学21名、明治学院大学2名 ●子ども食堂スタッフ…4名 <西東京エリア>●園児と遊ぶ…新宿区落合第一・二・四小学校9名 ●植栽活動…サ高住ご入居者3名 ●サロン活動…五葉会12名 ●かけはし喫茶…サ高住ご入居者6名、ご利用者の知人2名、デイハウス・歌レクボランティア1名 ●かけはしまつり…上板橋第二中学校(校長、教員、生徒)40名、コーシャハイム向原自治会5名、大谷口民生委員1名、緑寿会(老人会)4名、東京都住宅供給公社1名、地域包括支援センター4名、株式会社セリオ2名、SDGsいたばしネットワーク3名、明治安田生命4名、板橋区小茂根図書館2名、いたばし総合ボランティアセンター3名、練馬第5団ボーイスカウト20名、板橋向原郵便局1名、職員家族5名、板橋リハビリ訪問看護ステーション5名、元職員・入職者2名、Performerムーくん、サ高住ご入居者24名、東京家政大学実習生1名 ●かけはしまつり(お笑い・パルーンアート)…8名 <南東京エリア>●園児と遊ぶ…星薬科大学1年3名、末永様 ●職場体験…荏原第5中学校3名、伊藤学園中学校4名 ●誰でも食堂…徳永様、大山様 ●楽器演奏…4名
- 体操…(株)第一興商1名 ●秋祭り手伝い…5名、(株)クックデリ4名 ●利用者との関わり…3名 ●健康測定会・お薬相談…ファミリー薬局4名



法人本部事務局

〒683-0853  
鳥取県米子市両三柳1400  
TEL:0859-24-3111 FAX:0859-24-3113  
フリーダイヤル:0120-418-658  
E-mail:welfare@kohoen.jp

東京事業本部

〒140-0015  
東京都品川区西大井2-5-21 ケアホーム西大井こうほうえん内  
TEL:03-6410-7365 FAX:03-6410-7364



2014年度日本経営品質賞大規模部門 (鳥取地区/介護)受賞



こうほうえんはISO9001-2015 (品質マネジメントシステムの国際規格)を認証取得しています



こうほうえんは 社会福祉法人として初めて おもてなし経営企業に選定されました



こうほうえんは 社会福祉法人として初めて ハイサービズ日本300選に選定されました

詳しくはHPへ



こうほうえん 検索  
https://www.kohoen.jp